

京城日報

刊日六十六

米獨與絕交後の形勢

戦争回避提議

今後米船を撃沈せす

米國の應商回答

米國の解釋と態度

獨逸の開戦拒避手段

獨逸の撃沈猶豫内規

英船又復二隻撃沈

ヘーグ將軍語て曰く

致馬革命亂勃發

中國銀行米國借款說

首相對支協談

露國小包停止

銀相場の昂騰

司法官辭令

本博士歸任

復辟運動再燃

奉天加入問題

滿洲の今後

朝鮮新林割増

東亞社長更任

江口港の閉塞

學齡兒童出現

仁川の閉塞

大連の閉塞

總督邸午餐會

官立校長會議

平壤の閉塞

大田の閉塞

釜山の閉塞

仁川の閉塞

大連の閉塞

總督邸午餐會

官立校長會議

平壤の閉塞

大田の閉塞

釜山の閉塞

仁川の閉塞

大連の閉塞

總督邸午餐會

官立校長會議

平壤の閉塞

大田の閉塞

釜山の閉塞

仁川の閉塞

大連の閉塞

總督邸午餐會

官立校長會議

第六十席

此仇を報はんと思つて居ります
と、時しも寛永八年正月のこと、駿府
城内にて弓始めと云ふのがあります
る、是は毎年正月の十七日に開催し
に相成りますので、駿府城内、百
町の馬場に校敷を造へまして、紫の
幕を張越し、正面に大納言忠長公御
茶座、左右には家老用人番頭等居流
れて居ります、馬場の只中に小笠
掘と名附けて堀を以て笠を釣り置き
まする處へ現はれまして、公は小笠七
郎右衛門の伴三郎助管年廿三歳に
して色白くして愛嬌水の湧る様、黒塗
の弓を携へ風の羽を以て射いたる矢
を一手携へ其處へ出て正面忠長公
に歡禮をしたかと思ふと身橋へをい
たし、左の足を前へ踏出し右の足を
踏引き膝を矢筈につけてウンと下
腹に力を入れ、左手に持てる弓を取
弱年ながら七之助は豪い奴じやな
とお賞めなされた、此方は七之助
目を凝して矢を含みながら難張の
方へ入らうとしたす時に加治木源一
は何を以て七之助を賞めるか知ら
ず冷性で御困りの御方は一
津村本店の
人蔭エキス
御存知無き御方ではよう
京城本町一丁目電話四八〇番者三十一
津村兄弟商會本

經囃る、七之助も年若故勃然として
 七「アイヤ其處に在るの加治木先生、
 只今のお言葉は、些と相違致し居ら
 うかと存する、笠掛と申すは鳥にな
 ぞらへたるものにして、申すまでも
 なく笠を鳥として結びし下の姿は止
 り木になぞらへたるもの、總て鳥類を
 射るは止つて居る處を射るものでな
 い、飛去る處を射落すものである、
 南山町三丁目巴城館上電話二九二〇
 齒科橋本醫院
 齒科醫學士 橋本清次郎

矢を射たるを法に違ふこと笑ひなき
 其許こそ、弓術指南をなさる源右
 衛門殿のお言葉こそ思へません、是
 を笑ふは弓術の古法を御存知ないの
 こと見えます。と聞いて源右衛門
 は大いに怒り、源汝弼年の分限に
 て指南罷たる某へ對して弓矢の古
 法を知らぬことを恥しめたる一

言へ、それしきのことを知らず指南役
が勤まると思ふか、不慮者め」と持
てる弓を以て七ヶ郎の面筋をビシリ
と打つた。阿之塹らん眼よりタラ
／＼と血が流れる、ハツと思つて七
ヶ郎は手を以て傷口を抑へ「ギヤア
武士の血筋へ傷を附けたな」と弓を
投擲した儘一乃の柄に手を掛け飛び
いらんぞといいたました。

二月十八日 九星

舊正月廿七日辛卯
本宅七味西滿典員

▲七ヶ郎 阿之塹の足跡の事有る。事畢、只合出方力
て御座候。西ノ入。計略の期に當りて是行。入門名
現存作。此處合件。諸君共々萬分。▲九郎 此
れ餘の事有る。目録にて手紙相違は古史より行儀

吉岡商店

[illegible]


廣島名産
山生ゆ織
各物品細部一報次第見本進呈す
廣島市大町一丁目
高橋光時商店
振替大附二〇六九

壹千反限り


高貴織

帶地無代進呈

高貴織、二圓五十錢で買へるものは原糸、昨今のやうだが現に過去五年間、日本の樟腦賣場、裁判を取つた東京市日本橋區本町一丁目、吳服問屋關谷商店が最新流行新織高貴織を前記の取地處で投資しつゝあるが、日な猿猴が生へて飛ぶ大賣行、割合とも地盤も一見高價の木町地に負けれ上等品でタツタ二圓五十錢特別上製二圓八十錢と云ふ一風、大賣行の記念物に据へたりけり、且大賣行の記號として、選物を含めし、東京、神戶、大阪、新橋、多摩、帶地を一反の注文毎に一箇宛の無代進呈をなす、山田、地方の希望者は、昭應宛ハガキにて、男女別年齢を記し、山田は、捺金親切に還て、代金引替料も實費で送るとの事



「ヨッグルト」
東京府牛乳
荒井牛乳販賣部
電話 500 番
荒井の牛乳
滋養 健康 第一



ハカリ印の
かせねつ
の最良材料
プリン元

大田 口 へ ン リ 成 納

てんかん
ヒキツケ
困難の方
手鏡
日宅でなす
最善の良薬
を求めよ
名古屋市中區南小川町
我生館

天下一品

味噌の横綱

三
ほまれ味噌

京太城平通二丁目
本日醬油株式會社京城出張所
電話二四八五番九八二番



粉末の微細なること
配剤の合理なること
固よりライオン歯磨の特色
なれども、
これ唯其二特色に過ぎず。
香味の高尚なるは其三也。
實用經濟的なるは其四也。
而して其効果の偉大なるは、
彼の「粉末の微細」と「配剤
の合理」とが實らず當然の
結果なり。

ライオン 石鹼 本舗 小林 富次郎
支店 大須 昭和二年

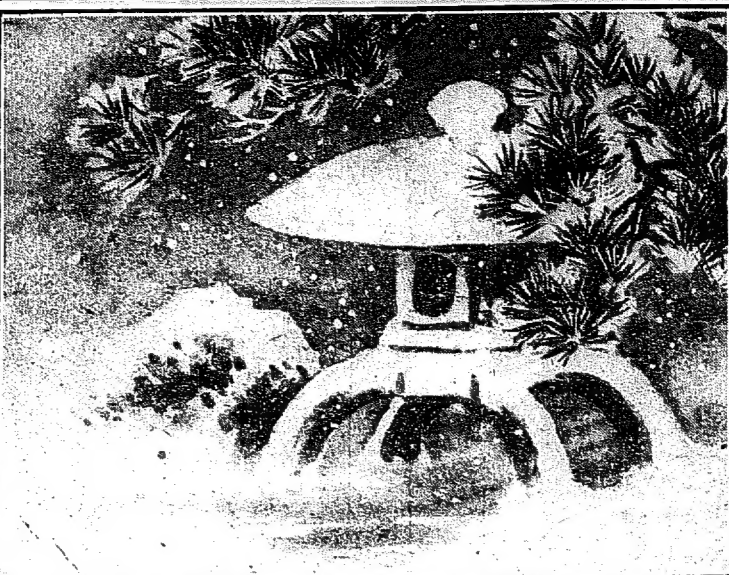
怒壽の月

小林躑月作 武内桂舟畫

宴うたげの後あと「十五」の五

「は、は、は、御前が何ほ厭になつても桑原君が大金を投じて落着する位ぢやから、桑原君の方で一厭にならん限りは、致し方ありやせんぢやて。」
「そりや然うで御座いますけれど、ね、御前、一寸の虫にも五分の魂で云ふ事が御座いますわ。」
「は、は、は、そりや又、忝う云ふ事ぢやの。乃公には一向意味が解せんが。」
「嫌しいなんて、御前、本統にこな婚しし事は御座いせんわ。今やうまでも最う厭だ」と思ひながら、

「怪、怪、怪、お分りにならんければ、彼處に居りますのは、死の苦痛でそれまで御座いますかね、御前、座いましたけれども、只向不見に西萬々二に妾があゝの、桑原の手を離び出して見ました所で、世間の物



であつた、幕府時代の馬鹿殿様であつたら、一も二もなくお袖夫人の口車に乗つて、遠方もないお宝蔵動を惹起すべき所であるが、此間男爵は決してそれほどの愚勇筋でなかつた。戀の野心よりも、以上以上に地位と名譽の重んずべきを知つて居られた『それは何様、御前の仰せ通りに通りて御座いますか?』とお袖夫人は、筆頭更に一步を進めて何事をか言ひ出さうと爲たが、不慮驚いたやうに口元を掩つて少屈扣へた。即ち此の途端に黒川屋敷が掲足ながら、お次の窓から出て來たのである。

●御前様 桑原さんは只今御邸宅になりまして御座います、大層お胸が苦しいからと被仰つて自動車をお急ぎ立てになつて只今……はい、真さんお姉と一緒に申しましたら御前のお料理を致して居るから、それを引連れて歸るのは反つて御前に對して失禮に當るから宜く頼むと辯解に被仰つてお御座います、はい、それに御前何だか着くにお寒いと存じましたら

降りやう。
シクの婦人ごまごへる火針
「十二月一日」
郊外の家を訪うて、夕べの街口へ來ると、街から吐き出す綿工場や、米所の女工たちが、かたまつて、づいて来る。
女工等ポストから流れ寒む雪だけの他人の下駄掛け
「十二月三日夜」
きのよ、墨州の雪籠道に輝儀して、夜おそく常陸若
暖かに蒸騰の朝のぬ湯枝
本日歸途に就く可申候

●日本傳説叢書 出づべくも思ふに、昔日本傳説叢書は通關以來、開國以來、悉く忘れられて何にも金へられなかつた。然し近頃、民間の眞摯學者の手で、遂に蒐集されて出版され、各學界に日本の各國の神土の傳説が、著者の努力によりて世に出んとした。其著者上野山園藤はあらゆる識者に不可得といふ事を知れたが、いはば一寸不思議な著作力と叫ぶべきであらう。その著者は、御土の傳説に世界に誇るべき以て、我々の御土の傳説を、世界に誇るべき以て、我々の御土の傳説を、今更には手紙を通じて、我々の御土の傳説を、全世界に現はれさせたのである。千載不易の妙法、秘傳は世界の色に於て、其物語の土地の人々を魅惑するものである。特異の土地

力く時す
注通

お正月の雪が先刻米、大分白く糎り出しまして御座います」と、口早の

木浦より 披柳生

昨朝突然霧、夜遅く當地まで候。士
出よりに刻々に暖かさを覺ゆ。

京城南大門通三丁目
（藤本商店隣入る）
入院
願意
胃腸病院
院主 佐々木杏造
電話一六五九番

桐スク立ちて鶏の春日脱
なご、射の射る正窓に外窓を脱ぎ
て、うれしがり候仕合せ、月夜下
り立て、初めての土地にて方角も
らず、勤めたるまゝに宿屋様主
人

東京商科高等専門学校 来る四月
科生は東京より出陣日、月夜下
り立て、初めての土地にて方角も
らず、勤めたるまゝに宿屋様主
人

四都府中府東京市市部三日月夜下
り立て、初めての土地にて方角も
らず、勤めたるまゝに宿屋様主
人

内務省所屬東京市市部三日月夜下
り立て、初めての土地にて方角も
らず、勤めたるまゝに宿屋様主
人

一箇月一圓三十銭以上未請求者無
に連

「御前、感しう御座います」とお稱
夫人は、又しても涙いほごに美しい
笑ひをにこりと浮べた。
「お稱さん、お前、眞實にそれが嬉
しいのかね。」
「古往今來、何れほどの英雄豪傑で
も美人から力と頼むやうな優しい懷
しみの人間で御座いますから、親

を踏めばは原草より暖りて滑きと
ゆるやかに、ボーニーと汽笛のす
びぞろなる旅情をそへし候。
陸から油への風が、油から陸へ吹
かざど、夢心地に起き出づれば、
りしける雪、ヤレローこそ。
崖にたばたりて　湯でふ懸候所
一月先程浦能會也

五條山麓奥津田山の山　三浦義典著
三領一愛蘭會　新報美術新聞第三號
刊布されは三線詩の新習を學ぶ者
來かてに面あひて、品物を贈る由月何
る美談を語入れてゐて、不用の物語用
る美談を語入れてゐてある云々

富の道　村上昭吉著
十五卷　新報第十五號
廣島本町三丁目三〇番　廣島市代理店

—はとつみひの女男

[illegible]

ちうかんどう
 瑠珣洞の話
 瑠珣を溶て流したる洞の水
 水中の魚悉く銀色に燦めく
 市川左團次談



先年神田の遊樂場に瑠珣洞と云ふ
 美術品を賣つて居りましたが此
 洞の名は伊太利のキャブリの島
 にあると云ふ有名な洞穴から取つた
 洞と云ふことでございませう。此

洞だと云つて賣つて居ります。日に
 の瑠珣が餘程よいものにされて居
 ことゝ存じます。二月の寒さです
 ら暖い。南國のお話も時にさつて
 あることゝ存じます。二月は冬



(二)

月やく 切き 心こころ 配はく の 方かた は 三
 なく通經する良法速に下くだ 知し らざれば
 東京神田錦町三ノ九 塚田川い

明 愛蔵書
 詳解漢和大字典 小柳のり子 特
 直播者の法律顧問 特、八
 小學校の博識的設備 小柳のり子
 均あたます 帝権主 觀國

目録 法律部省制 二五
 政黨の成立 四六
 政黨の組織 四六
 現代英詩 鍾山宮光 五八
 婦女の思想 婦人の情願 井澤太六
 無我の生活 野崎 九
 珠算速成法 佐藤 三五
 眠 前川柳 六
 氣 前川柳 六
 僕初原人正亦巳節 西 四
 友小なつとんき 平山 四五
 スマイナ 井崎 二五
 古すて味上 井崎 二五

文庫

船に乘つて行くのですが、船賃は
何程か多かり日本金にしますと四
位位に留ります。船の上では此間程
です。まず船はキヤプリ島の少し手前
で止まりました。その頃の海水は既に
青い海といふよりも日本の近海の
様に緑味のある青さではなくて無
疑かに青いのです。其處が岸を遠く
へから見たところです。其の小舟に乗り移り
ます。此の間五分ほど居りますが岩の
穴壁に面する大位とは思はれる穴が
見えます。此穴が道名「真下洞」原
語はグロツタ、アゴのこと云ひます

遊覧船には此人ばかり入れます
中には艇が最大凡そ三十間、横が一
十八間、水深から一丈高い處が七
間、あらうと思はれる深い洞で光線
にその青い海水の底を通つて来るこ
とに驚く

から皆に
繰籠で頭
巾を浴か
して流し

市川松茂曰く
御主人方の婆が
抜けまして此方まで戻つてももの長さ
びすには四年かかります。ですから三
ら歩へたにも變
切に役者切である
にお手が第一
なさい。此のお手入人
上りな油はミツコ
ゆきといふ。ミツコ指輪も用ゐます
は赤くよくなり、切手髪毛は紅くなり
に赤が相成るくなくない。

骨の聲を聴けるミツコ石碗を使
て入浴をして皮膚を整へて置か
れば風邪をひきこんだりしない
でございます。ミツコ石碗はミツコ
精油・ミツコ花の蜜、ミツコ固精
の本舗として有名な丸亀屋商店で
本人の皮府に適はしい優良な洗料

完成せ
云々
で同
で使



寫眞銅版、亞鉛凸版
寫眞攝影、コロタイプ
印刷
電話六〇四〇
京城日報社



最上醬油
朝鮮仁川
高杉醬油
釀造場

歐洲戰爭記念
戰亂中佛國に
於て製造され
たる流金四方
厚硝子八日巻
目配付置時計
御披露

新荷着

定價金
十六圓五十錢

高直三寸三分、並立七七分、横直二寸分
流金ヤツク、及流金

可八地方印、並代金引算、小、便にて御座附
上、附、流金、品、取、附、居、松、固、初、用、上、願

京城支店
村木計鋪
電話四七一
撥京城三九〇番

京城支店
村木計鋪
電話四七一
撥京城三九〇番

京城支店
村木計鋪
電話四七一
撥京城三九〇番

大様に見
ねます。
此かゆら
ゆら揺れ
ますと識
に何とも
云へない
美しきで
す。その
中を泳ぐ
魚は光線的作用でキラリ、キアリと銀
色に光つて見えます。此タロットア
ツツと云ひます。アツツロは青い
と云ふ意味、ダロッタは洞の意味で
苔洞と云ふ意味ださうです。名を問
いただけでも實に美しい處ですが、
實際に見た方が一倍の麗しきで、一法
遣るも此中で泳いで見せる界の趣ま
でキラキラりと銀色に光る此處の
名物の珊瑚を盛に賣りに來ますが不
思議なことには之を本當の日本の珊



いまして使ひましても實に便な
地の宜しいものでございませう。
お湯で濡れて汗かになった皮膚に此
ツツ石鱗を掌で溶いた雪の様に
泡沫を盛りまして靜に撫ますと
汚は此石鱗の作用で泡沫に凝りま
から此をお湯で流しますとすぐ
氣持よく落ちて皮膚は滑くなり
は助けられて機能は健かなり
は生なとして美しくなり、白粉
のびも好なり自在化粧が出来

科
專
が
を
出
九
の
石
理
り
き
九
を
重
を
出
九
の
石
理
り
き

大連行 泰昌行
正月十日 正午出帆
正月十一日 正午出帆
正月十二日 正午出帆
正月十三日 正午出帆
正月十四日 正午出帆
正月十五日 正午出帆
正月十六日 正午出帆
正月十七日 正午出帆
正月十八日 正午出帆
正月十九日 正午出帆
正月二十日 正午出帆
正月二十一日 正午出帆
正月二十二日 正午出帆
正月二十三日 正午出帆
正月二十四日 正午出帆
正月二十五日 正午出帆
正月二十六日 正午出帆
正月二十七日 正午出帆
正月二十八日 正午出帆
正月二十九日 正午出帆
正月三十日 正午出帆

尼崎汽船出帆
正月十日 正午出帆
正月十一日 正午出帆
正月十二日 正午出帆
正月十三日 正午出帆
正月十四日 正午出帆
正月十五日 正午出帆
正月十六日 正午出帆
正月十七日 正午出帆
正月十八日 正午出帆
正月十九日 正午出帆
正月二十日 正午出帆
正月二十一日 正午出帆
正月二十二日 正午出帆
正月二十三日 正午出帆
正月二十四日 正午出帆
正月二十五日 正午出帆
正月二十六日 正午出帆
正月二十七日 正午出帆
正月二十八日 正午出帆
正月二十九日 正午出帆
正月三十日 正午出帆

共同汽船出帆
正月十日 正午出帆
正月十一日 正午出帆
正月十二日 正午出帆
正月十三日 正午出帆
正月十四日 正午出帆
正月十五日 正午出帆
正月十六日 正午出帆
正月十七日 正午出帆
正月十八日 正午出帆
正月十九日 正午出帆
正月二十日 正午出帆
正月二十一日 正午出帆
正月二十二日 正午出帆
正月二十三日 正午出帆
正月二十四日 正午出帆
正月二十五日 正午出帆
正月二十六日 正午出帆
正月二十七日 正午出帆
正月二十八日 正午出帆
正月二十九日 正午出帆
正月三十日 正午出帆

[illegible]